

農家アンケート結果

回収数 166/286

回収率 58.0%

【調査対象】

10アール以上の農地を耕作し、年間の農業従事日数がおおむね60日以上の方のいる世帯
なお、相続税納税猶予制度の適用農地および生産緑地地区に指定された農地を耕作または所有する世帯は、耕作面積に関わらず対象となります

【調査方法】

郵送による配布・回収

【調査期間】

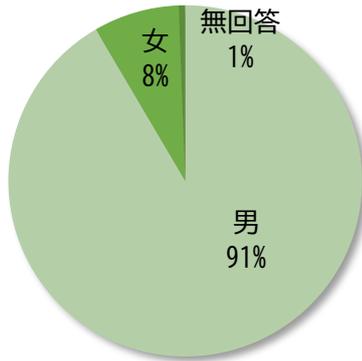
令和元年（2019年）9月5日（木）～9月20日（金）

【基本情報 問1～問6】

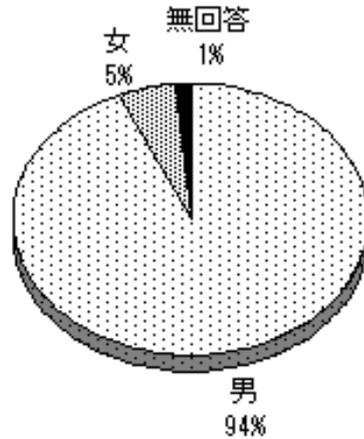
問1 回答者（主な担い手）の性別

◆男性回答者が91%と大半を占めています。

男	152
女	13
無回答	1



【平成15年度アンケート結果グラフ】



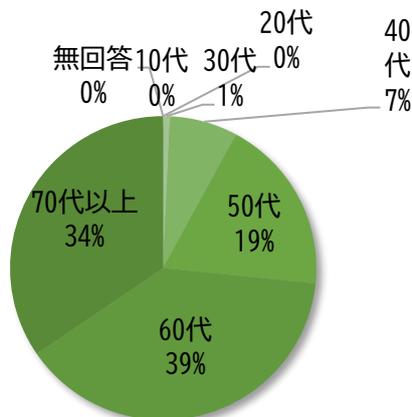
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

主な担い手は平成15年度と変わらず、男性が9割を占める結果でしたが、男性回答者が▲3%となっており、女性回答者が増加していることがわかります。

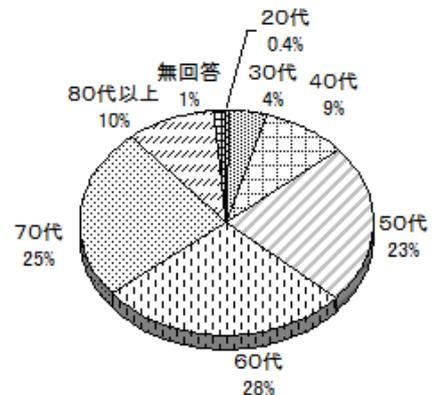
問2 年齢

◆60代の回答者が最も多くなっており、50代以上の合計が9割以上を占めています。

10代	0
20代	0
30代	1
40代	10
50代	26
60代	54
70代以上	48
無回答	0



【平成15年度アンケート結果グラフ】



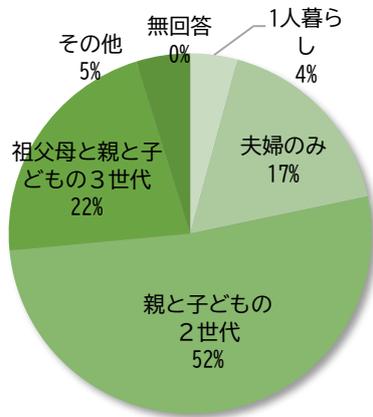
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「60代」が+11%、「70代」が+9%となっており、「20代」から「50代」は減少しています。

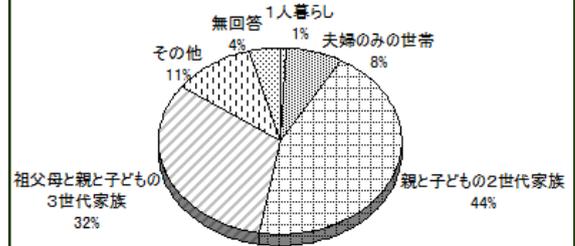
問3 世帯構成

◆「親と子どもの2世代」が52%となっています。

1人暮らし	7
夫婦のみ	29
親と子どもの2世代	86
祖父母と親と子どもの3世代	36
その他	8
無回答	0



【平成15年度アンケート結果グラフ】



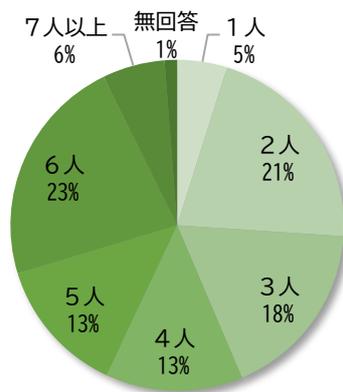
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「親と子どもの2世代」が+8%、「祖父母と親と子どもの3世代」が▲10%となっています。また「夫婦のみ」が+9%となっています。

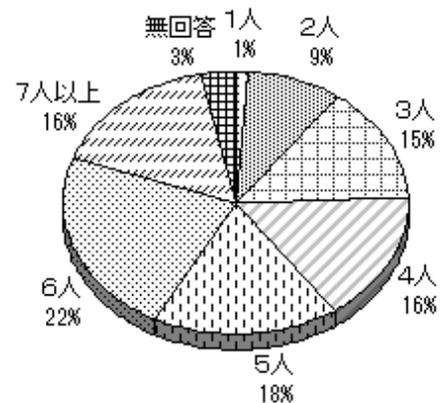
問4 同居者の人数

◆「6人」と回答した人が23%と最も多く、次いで「2人」と回答した人が21%となっています。

1人	8
2人	35
3人	29
4人	22
5人	22
6人	37
7人以上	10
無回答	2



【平成15年度アンケート結果グラフ】

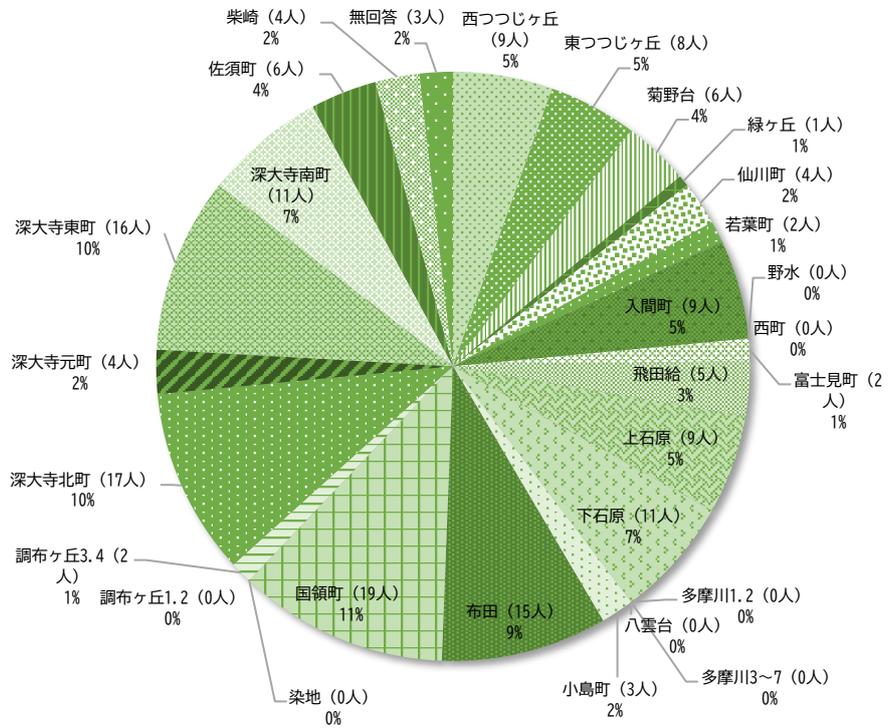


【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

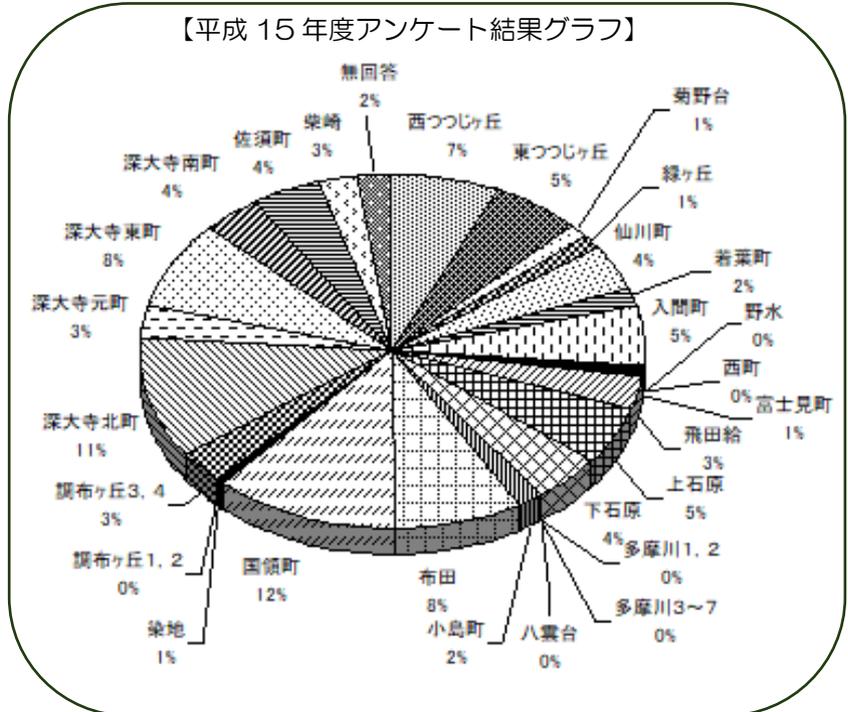
「7人以上」の世帯が▲10%となっていますが、「2人」と回答した人が+12%となっています。また「1人」も+4%となっており、少人数の家族が増加していることがわかります。

問5 住んでいる町名

◆「国領町」に住んでいる人が最も多く、次いで「深大寺北町」が多くなっています。



【平成15年度アンケート結果グラフ】



■平成15年 ■令和元年

【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

概ね横ばいの結果となっています。

問6-1 家族内で農業に従事している方の人数（回答者含む）

◆男性の「年間150日以上」と回答した人が141人と、最も多くなっています。そのうち59歳以下が67人と過半数以下となっており、高齢化が進んでいると考えられます。

※令和元年度の回答者数 166人、平成15年度の回答者数 273人

(単位：人)	男性				女性			
			うち59歳以下				うち59歳以下	
	令和元年度	平成15年度	令和元年度	平成15年度	令和元年度	平成15年度	令和元年度	平成15年度
年間60日未満	112	60	21	30	47	63	24	41
年間60～149日	37	71	17	47	27	74	14	41
年間150日以上	141	207	67	117	61	114	29	62

【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

平成15年度と令和元年度ともに、年間150日以上従事している人数が最も多くなっていますが、本年度アンケートでは「年間60日未満」の回答が増加しています。また女性従事者が減少しています。

問6-2 家族以外で農業に従事している方の人数（回答者含む）

◆回答者が30人となっており、家族以外に従業員雇用をしている農家が全体の3分の1程度となっています。

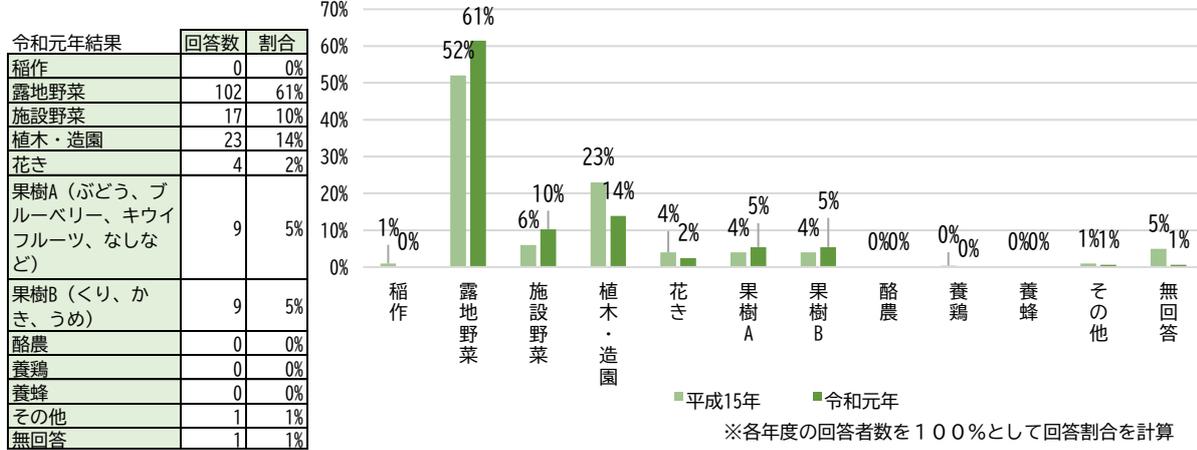
(単位：人)	男性		女性	
		うち59歳以下		うち59歳以下
回答者数 30人				
常勤雇用	9	5	4	3
アルバイト・パート	12	3	16	12
農業ボランティア	0	5	1	1
その他	39	35	7	2

※令和元年度新規の質問

【生産販売について 問7～問10】

問7-1 生産している主たる作物は何ですか？

◆「露地野菜」と回答した人が61%と最も多く、次いで「植木・造園」と回答した人が14%となっています。

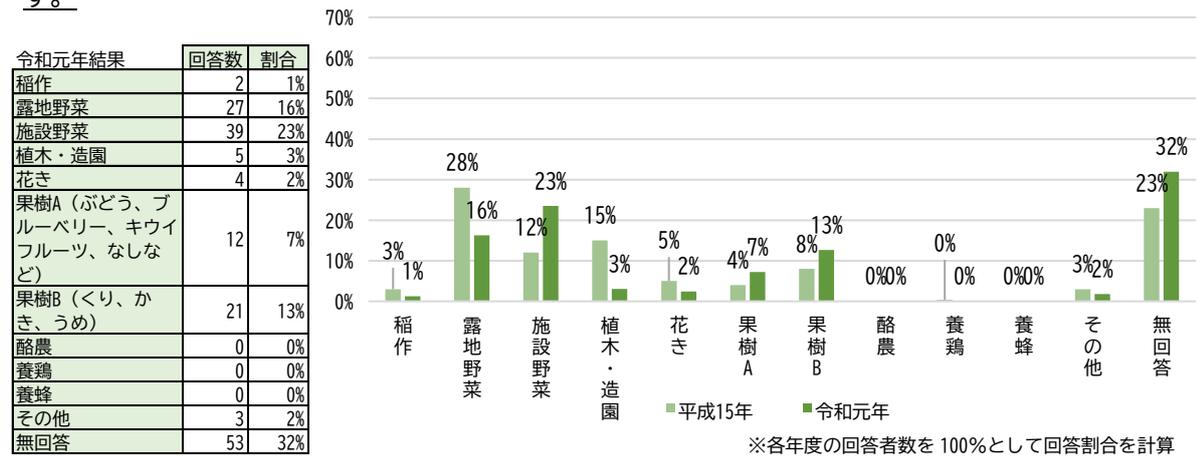


【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「植木・造園」が▲9%、「花き」が▲2%、「稲作」が▲1%、「無回答」が▲4%、となっており、「露地野菜」が+9%、「施設野菜」が+4%、「果樹A・B」がそれぞれ+1%となっています。

問7-2 生産している従たる作物は何ですか？

◆「施設野菜」と回答した人が23%と多く、次いで「露地野菜」と回答した人が16%となっています。



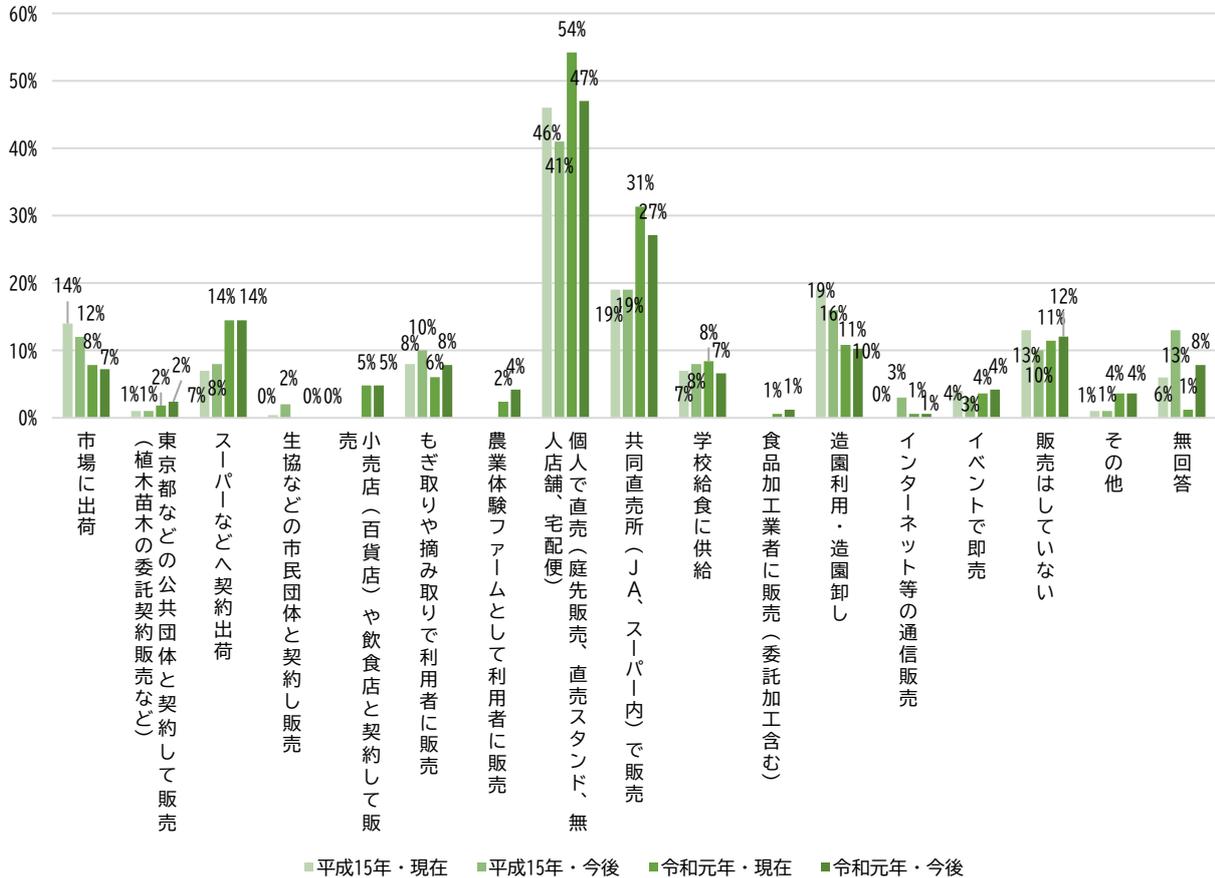
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「露地野菜」が▲12%、「稲作」が▲2%、「植木・造園業」が▲12%、「花き」が▲3%となっており、「施設野菜」が+11%、「果樹A」が+3%、「果樹B」が+5%、無回答が+9%となっています。

問8 現在、販売はどのような方法で行っていますか？また今後はどのような方法で行いますか？

◆「個人で直売」と回答した人が多くなっています。次いで「共同直売所で販売」と回答した人が多くなっています。

※各年度の回答者数を100%として回答割合を計算



令和元年度結果	現在		今後	
	回答数	割合	回答数	割合
市場に出荷	13	8%	12	7%
東京都などの公共団体と契約して販売 (植木苗木の委託契約販売など)	3	2%	4	2%
スーパーなどへ契約出荷	24	14%	24	14%
生協などの市民団体と契約し販売	0	0%	0	0%
小売店(百貨店)や飲食店と契約して販売	8	5%	8	5%
もぎ取りや摘み取りで利用者に販売	10	6%	13	8%
農業体験ファームとして利用者に販売	4	2%	7	4%
個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	90	54%	78	47%
共同直売所(JA、スーパー内)で販売	52	31%	45	27%
学校給食に供給	14	8%	11	7%
食品加工業者に販売(委託加工含む)	1	1%	2	1%
造園利用・造園卸し	18	11%	17	10%
インターネット等の通信販売	1	1%	1	1%
イベントで即売	6	4%	7	4%
販売はしていない	19	11%	20	12%
その他	6	4%	6	4%
無回答	2	1%	13	8%

※いくつかでも選択可

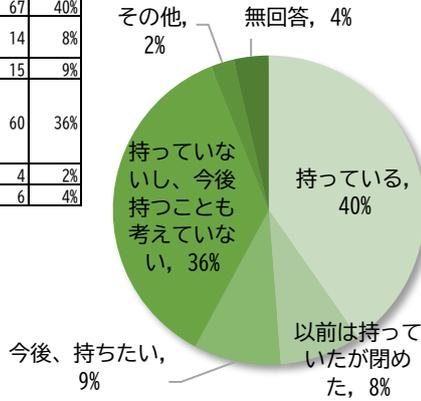
【平成15年(2003年)アンケート結果との比較】

「市場に出荷」「個人で直売」「共同直売所で販売」「造園利用・造園卸し」は減少傾向、「もぎ取りや摘み取りで利用者に販売」は増加傾向となっています。

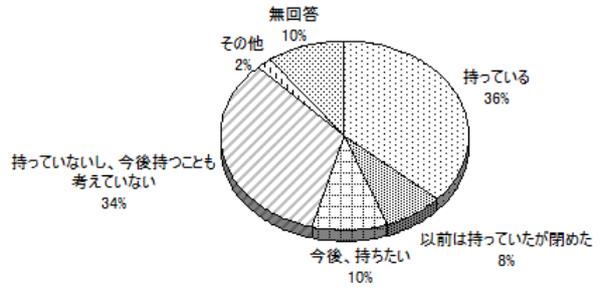
問9 直売所を持っていますか？

◆「持っている」と回答した人が40%と最も多く、次いで「持っていないし、今後持つことも考えていない」と回答した人が36%となっています。

	回答数	割合
持っている	67	40%
以前は持っていたが閉めた	14	8%
今後、持ちたい	15	9%
持っていないし、今後持つことも考えていない	60	36%
その他	4	2%
無回答	6	4%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「持っている」が+4%となっており、「持っていないし、今後持つことも考えていない」が+2%と、それぞれ増加しています。

《以前は持っていたが閉めた理由》

○ 人員不足・・・4件

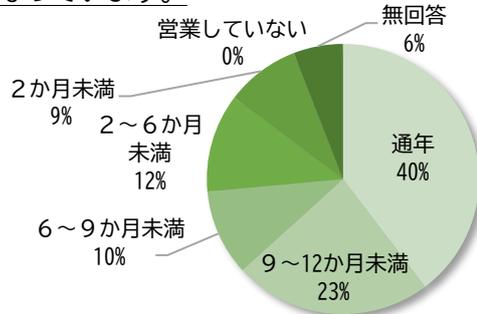
他

問10 問9で「直売所を持っている」と回答した方は、直売をどのような形態でおこなっていますか？（回答者68名）

【（1）年間営業期間 ※令和元年度新規の質問】

◆「通年」と回答した人が40%と最も多くなっています。

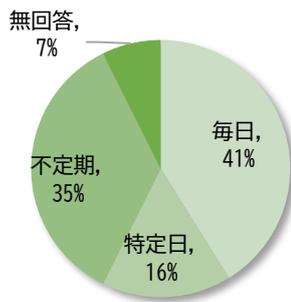
(1) 年間営業期間	回答数	割合
通年	27	40%
9～12か月未満	16	23%
6～9か月未満	7	10%
2～6か月未満	8	12%
2か月未満	6	9%
営業していない	0	0%
無回答	4	6%



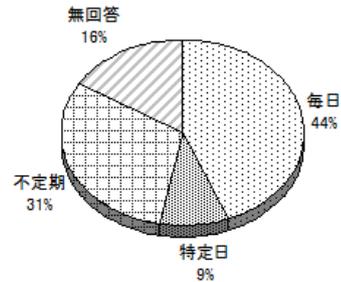
【（2）開店日】

◆「毎日」と回答した人が41%と最も多くなっています。

(2) 開店日	回答数	割合
毎日	28	41%
特定日	11	16%
不定期	24	35%
無回答	5	7%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



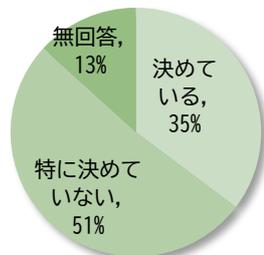
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「毎日」が▲3%となっており、「特定日」が+7%、「不定期」が+4%となっています。

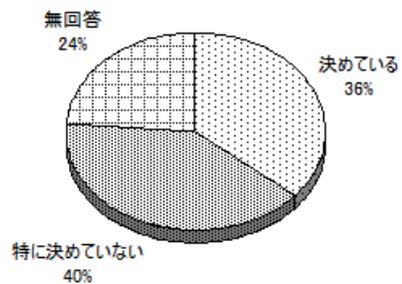
【（3）開店時間】

◆「特に決めていない」と回答した人が51%と過半数を超えています。

(3) 開店時間	回答数	割合
決めている	24	35%
特に決めていない	35	51%
無回答	9	13%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



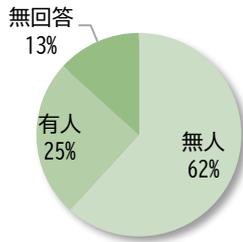
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「特に決めていない」が+11%となっています。

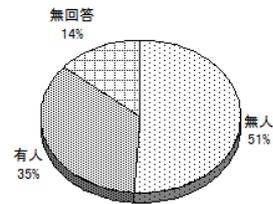
【(4) 直売の売手】

◆「無人」と回答した人が62%と最も多くなっています。

(4) 直売所の売手	回答数	割合
無人	42	62%
有人	17	25%
無回答	9	13%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



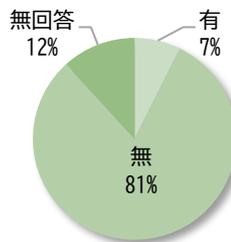
【平成15年(2003年)アンケート結果との比較】

「無人」が+11%となっています。

【(5) 自動販売機の設置 ※令和元年度新規の質問】

◆81%が「無」と回答しています。

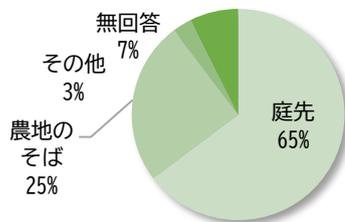
(5) 自動販売機の設置	回答数	割合
有	5	7%
無	55	81%
無回答	8	12%



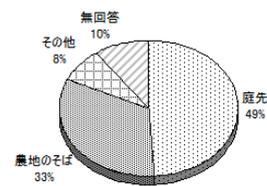
【(6) 場所】

◆「庭先」と回答した人が65%と最も多くなっています。

(6) 場所	回答数	割合
庭先	44	65%
農地のそば	17	25%
その他	2	3%
無回答	5	7%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



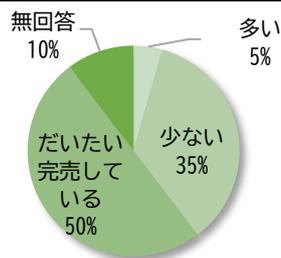
【平成15年(2003年)アンケート結果との比較】

「庭先」が+16%となっており、「農地のそば」が▲8%となっています。

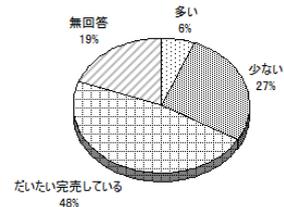
【(7) 売れ残り】

◆「だいたい完売している」と回答した人が50%と最も多くなっています。

(7) 売れ残り	回答数	割合
多い	3	4%
少ない	24	35%
だいたい完売して	34	50%
無回答	7	10%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



【平成15年(2003年)アンケート結果との比較】

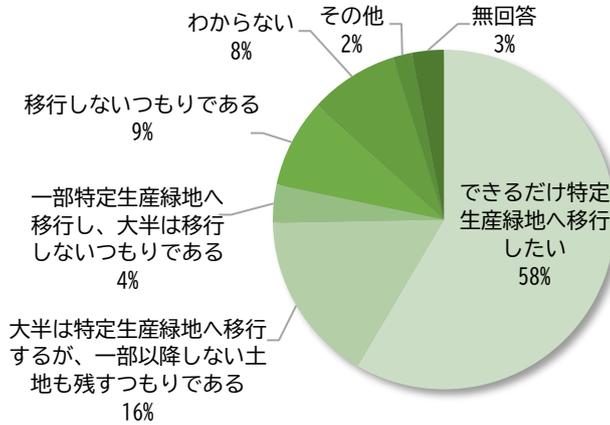
「だいたい完売している」が+2%、「少ない」が+8%となっています。

【農地について 問12～問17】

問12 市内にお持ちの生産緑地について、買取り申出期限到来への対応は
どうしますか？

◆58%の回答者が、「できるだけ特定生産緑地へ移行したい」と答えています。

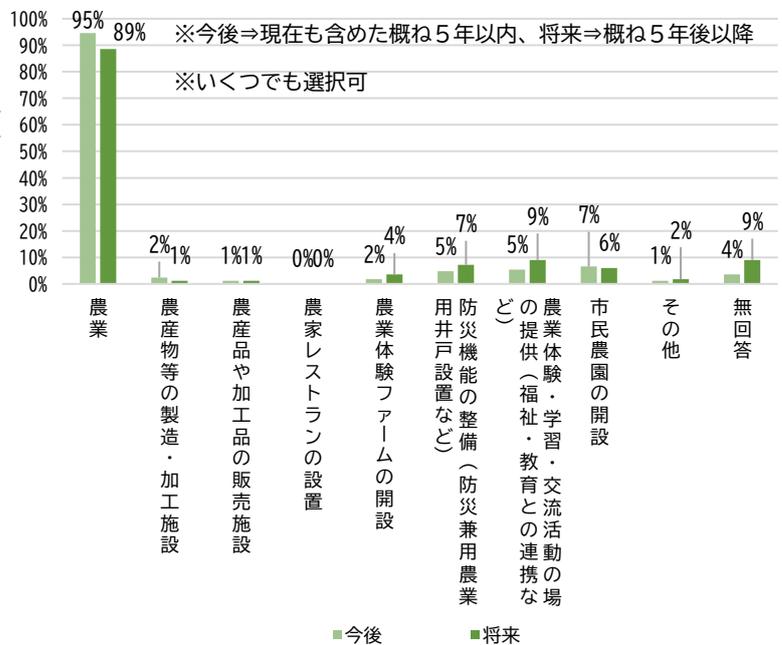
	回答数	割合
できるだけ特定生産緑地へ移行したい	97	58%
大半は特定生産緑地へ移行するが、一部以降しない土地も残すつもりである	27	16%
一部特定生産緑地へ移行し、大半は移行しないつもりである	6	4%
移行しないつもりである	14	8%
わからない	14	8%
その他	3	2%
無回答	5	3%



問13 市内にお持ちの生産緑地について、今後・将来の多面的な活用方法はどれにあてはまりますか？

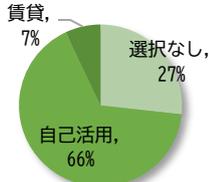
◆今後の活用方法を「農業」と回答した人が95%、うち将来の活用方法も「農業」と回答した人は89%となっています。また、農業の活用方法では、「今後・将来ともに自己活用する」と回答した人が60%を超えています。

	今後		将来	
	回答数	割合	回答数	割合
農業	157	95%	147	89%
農産物等の製造・加工施設	4	2%	2	1%
農産品や加工品の販売施設	2	1%	2	1%
農家レストランの設置	0	0%	0	0%
農業体験ファームの開設	3	2%	6	4%
防災機能の整備（防災兼用農業用井戸設置など）	8	5%	12	7%
農業体験・学習・交流活動の場の提供（福祉・教育との連携など）	9	5%	15	9%
市民農園の開設	11	7%	10	6%
その他	2	1%	3	2%
無回答	6	4%	15	9%



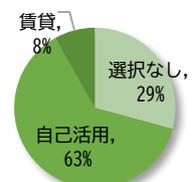
今後の農業⇒うち農業活用方法は自己活用ですか、賃貸ですか

	回答数	割合
選択なし	42	27%
自己活用	104	66%
賃貸	11	7%



将来の農業⇒うち農業活用方法は自己活用ですか、賃貸ですか

	回答数	割合
選択なし	43	29%
自己活用	92	63%
賃貸	12	8%



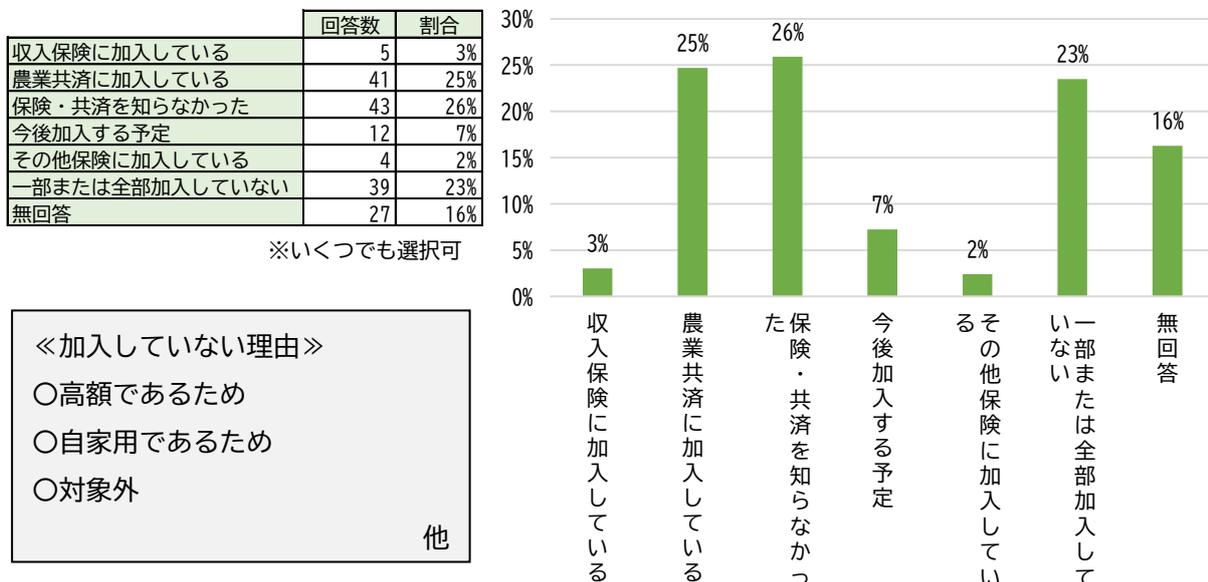
問14 市内にお持ちの宅地化農地の主な活用方法について、今後・将来と、どのように考えていますか？

◆「今後も農業を続けたい」と回答した人が41%と最も多くなっています。今後の農業から将来の農業では、「農業体験・学習・交流活動の場の提供」「いずれ売却したい」「無回答」が増加しています。



問15 所有する農地や施設における天災時の対策として、保険・共済に加入していますか？

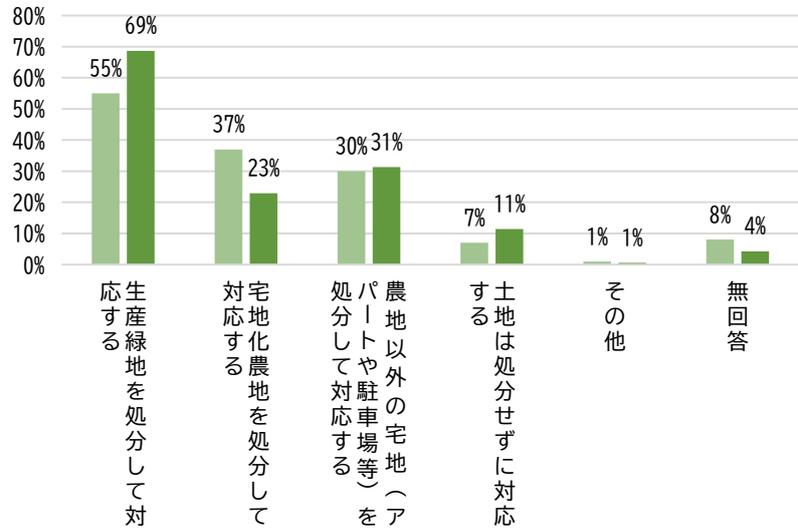
◆「保険・共済を知らなかった」と回答した人が26%と最も多くなっています。また「一部または全部加入していない」と回答した人が23%となっています。



問 1 6 相続が発生した場合、どのような対応を考えていますか？

◆「生産緑地を処分して対応する」と回答した人が69%と最も多くなっています。

令和元年度結果	回答数	割合
生産緑地を処分して対応する	114	69%
宅地化農地を処分して対応する	38	23%
農地以外の宅地（アパートや駐車場等）を処分して対応する	52	31%
土地は処分せずに対応する	19	11%
その他	1	1%
無回答	7	4%



※いくつでも選択可

■平成15年 ■令和元年

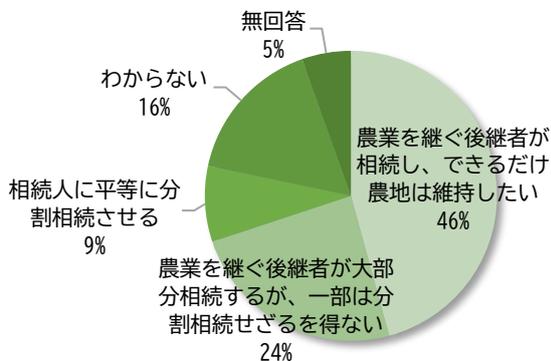
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「生産緑地を処分して対応する」が+14%と増加しています。また「宅地化農地を処分して対応する」が▲14%と減少しています。

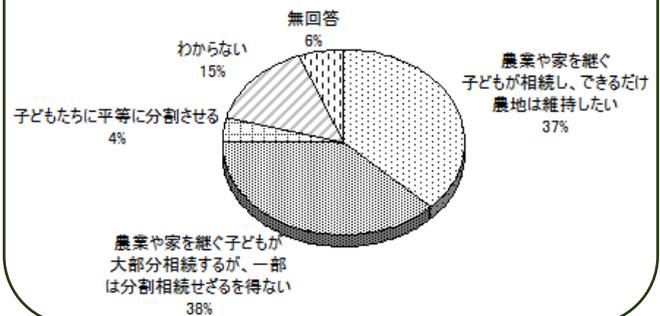
問 1 7 相続に伴う農地の分割・維持について

◆「農業を継ぐ後継者が相続し、できるだけ農地は維持したい」と回答した人が46%と最も多くなっています。

	回答数	割合
農業を継ぐ後継者が相続し、できるだけ農地は維持した	76	46%
農業を継ぐ後継者が大部分相続するが、一部は分割相続せざるを得ない	40	24%
相続人に平等に分割相続させる	14	8%
わからない	27	16%
無回答	9	5%



【平成15年度アンケート結果グラフ】



【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

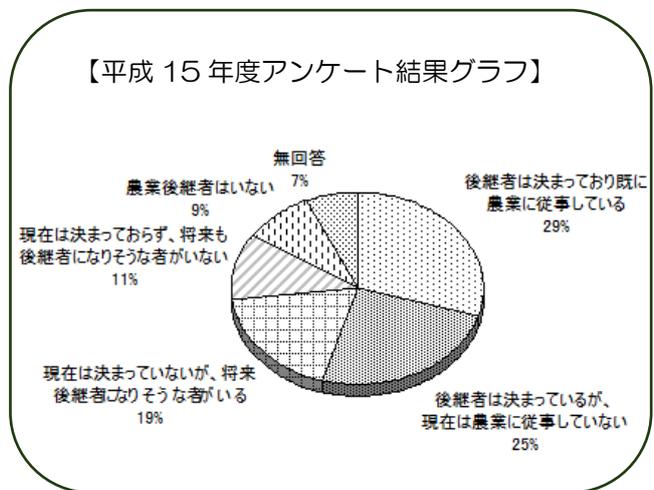
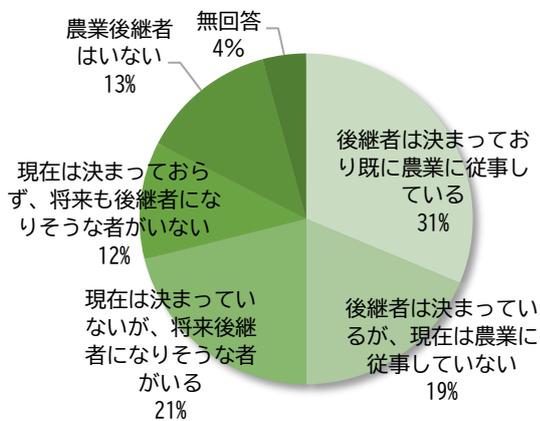
本年度アンケートでは「農業を継ぐ後継者が相続し、できるだけ農地は維持したい」が46%となっており、前回より+9%となっています。また「農業を継ぐ後継者が大部分相続するが、一部は分割相続せざるを得ない」は▲14%となっています。

【担い手について 問18～問22】

問18 後継者は決まっていますか？

◆「後継者は決まっており既に農業に従事している」と回答した人が31%と最も多く、また「後継者は決まっているが現在は農業に従事していない」と回答した人が19%となっており、後継者が決まっている回答者が50%となっています。

	回答数	割合
後継者は決まっており既に農業に従事している	52	31%
後継者は決まっているが、現在は農業に従事していない	31	19%
現在は決まっていないが、将来後継者になりそうな者がいる	35	21%
現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない	19	11%
農業後継者はいない	22	13%
無回答	7	4%



【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

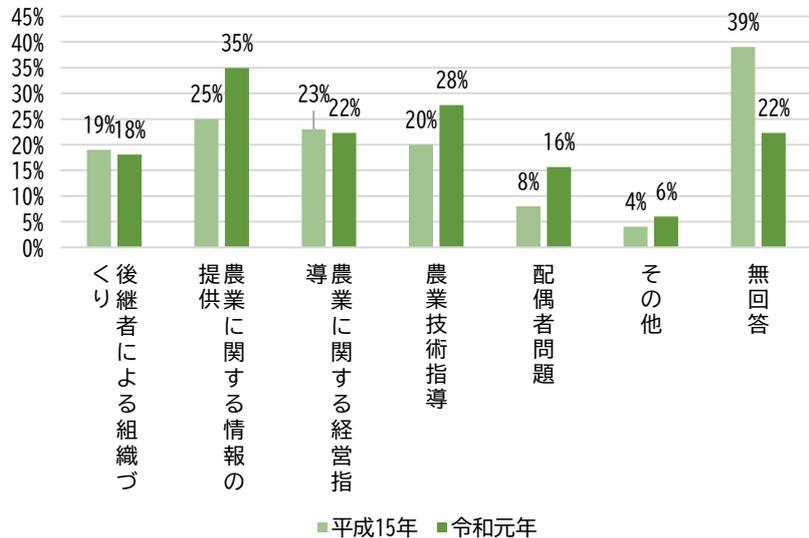
「後継者は決まっているが、現在は農業に従事していない」が▲6%と減少しています。また「後継者はいない」が+4%と増加しています。

問 19 農業後継者の方にとって今必要なこと、必要と思われることは何ですか？

◆「農業に関する情報の提供」と回答した人が35%と最も多くなっています。次いで「農業技術指導」と回答した人が28%、「農業に関する経営指導」と回答した人が22%と農業全般について指導を求める回答が多くなっています。

令和元年度結果	回答数	割合
後継者による組織づくり	30	18%
農業に関する情報の提供	58	35%
農業に関する経営指導	37	22%
農業技術指導	46	28%
配偶者問題	26	16%
その他	10	6%
無回答	37	22%

※2つまで選択可



【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

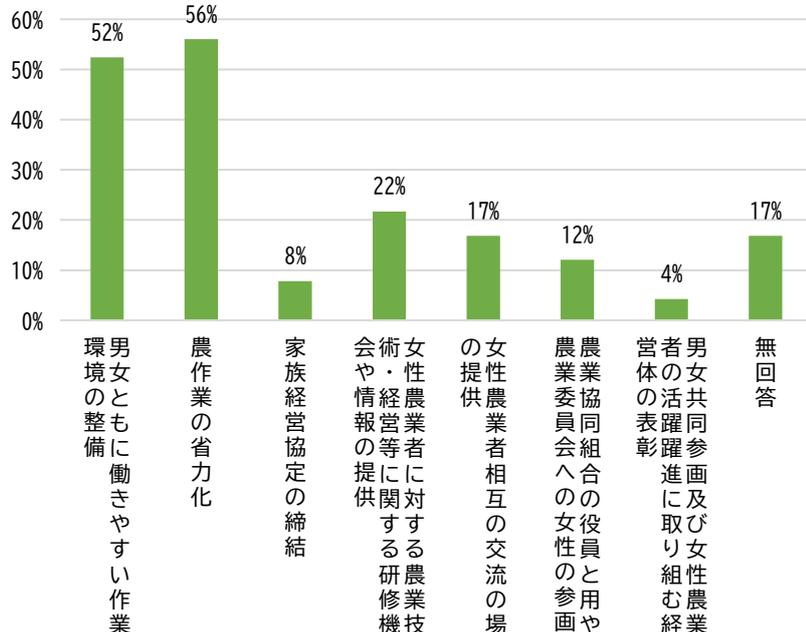
「情報の提供」が+10%、「技術指導」が+8%、「配偶者問題」が+8%となっています。

問 20 農業分野での男女共同参画及び女性農業者の活躍を推進するために必要と思われることは何ですか？

◆「農作業の省力化」と回答した人が56%と最も多く、次いで「男女ともに働きやすい作業環境の整備」と回答した人が52%となっています。

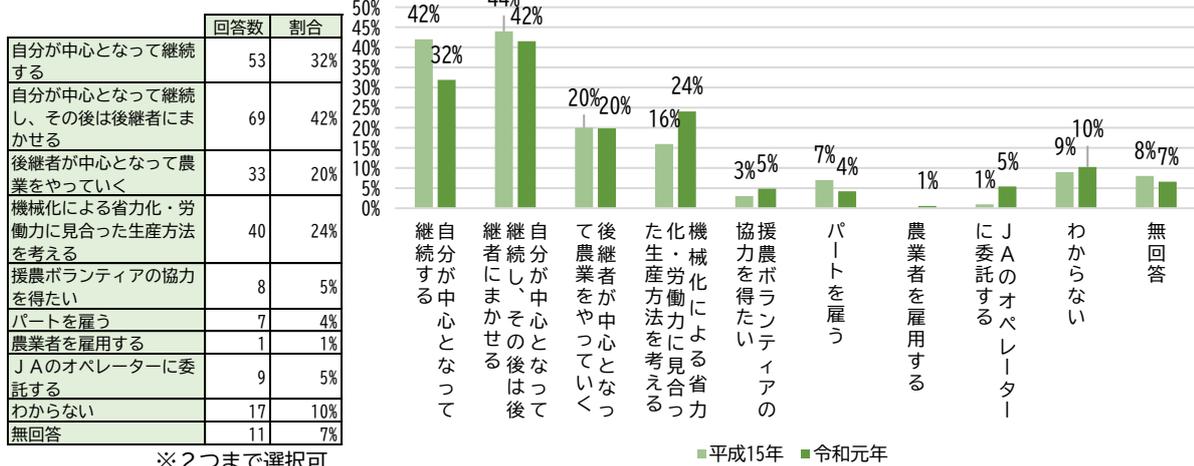
	回答数	割合
男女ともに働きやすい作業環境の整備	87	52%
農作業の省力化	93	56%
家族経営協定の締結	13	8%
女性農業者に対する農業技術・経営等に関する研修機会や情報の提供	36	22%
女性農業者相互の交流の場の提供	28	17%
農業協同組合の役員と用や農業委員会への女性の参画	20	12%
男女共同参画及び女性農業者の活躍推進に取り組む経営体の表彰	7	4%
無回答	28	17%

※いくつでも選択可



問 2 1 現在を含む農業の担い手や労働力についてあてはまるものはどれですか？

◆「自分が中心となって継続する」と回答した人が32%、「自分が中心となって継続し、その後は後継者にまかせる」と回答した人が42%となっています。また「機械化による省力化・労働力に見合った生産方法を考える」と回答した人が24%となっており、問20と同様に農作業の省力化について考えている人が多くなっています。

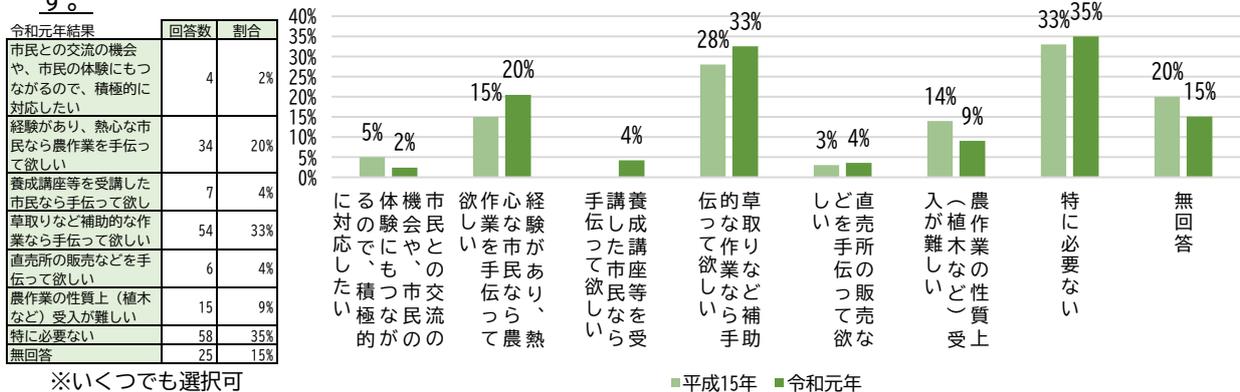


【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「自分が中心となって継続する」が▲10%、「自分が中心となって継続し、その後は後継者にまかせる」が▲2%と減少しています。また「機械化による省力化・労働力に見合った生産方法を考える」が+8%と増加しています。

問 2 2 援農ボランティアについて、あてはまるものはどれですか？

◆「特に必要ない」と回答した人が35%と最も多く、次いで「草取りなどの補助的な作業なら手伝って欲しい」と回答した人が33%となっており、援農ボランティアに消極的な農家が多いことがわかります。



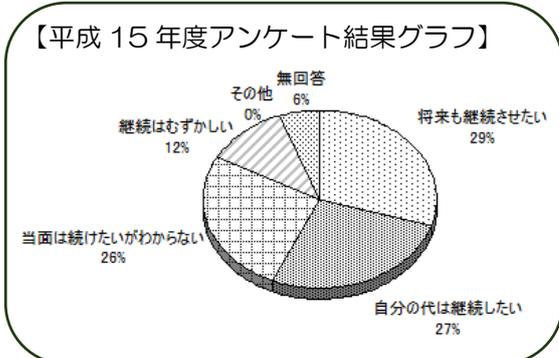
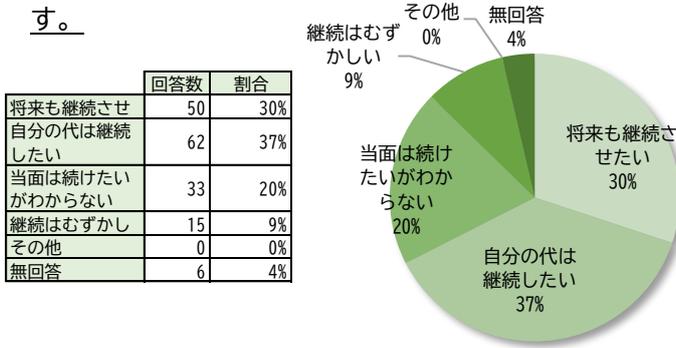
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

平成15年の回答に比べると、「経験があり、熱心な市民なら農作業を手伝って欲しい」「草取りなど補助的な作業なら手伝って欲しい」と回答した人が増加しているものの、特に必要ないと回答した人も増加しています。

【農業経営について 問23～問30】

問23 今後の農業について、どのようにお考えですか？

◆「自分の代は継続したい」と回答した人が37%、「将来も継続させたい」と回答した人が30%、「当面は続けたいがわからない」と回答した人が20%と、継続に前向きな回答者が多くなっています。



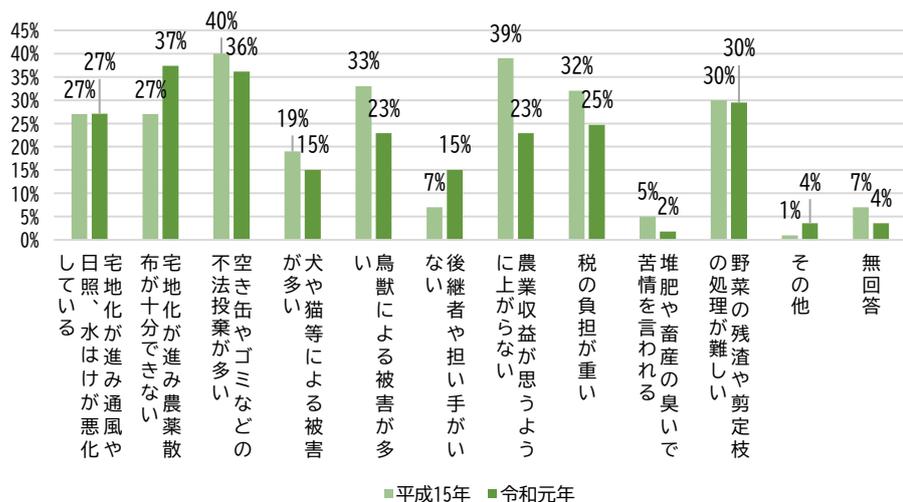
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「自分の代は継続したい」が+10%、「将来も継続させたい」が+1%となっています。また「当面は続けたいがわからない」が▲6%、「継続はむずかしい」が▲3%となっています。

問24 今後、農業を行っていくうえで困っていることはありますか？

◆「宅地化が進み農薬散布が十分できない」と回答した人が37%と最も多く、次いで「空き缶やゴミなどの不法投棄が多い」と回答した人が36%となっています。

令和元年度結果	回答数	割合
宅地化が進み通風や日照、水はけが悪化している	45	27%
宅地化が進み農薬散布が十分できない	62	37%
空き缶やゴミなどの不法投棄が多い	60	36%
犬や猫等による被害が多い	25	15%
鳥獣による被害が多い	38	23%
後継者や担い手がない	25	15%
農業収益が思うように上がらない	38	23%
税の負担が重い	41	25%
堆肥や畜産の臭いで苦情を言われる	3	2%
野菜の残渣や剪定枝の処理が難しい	49	30%
その他	6	4%
無回答	6	4%



※3つまで選択可

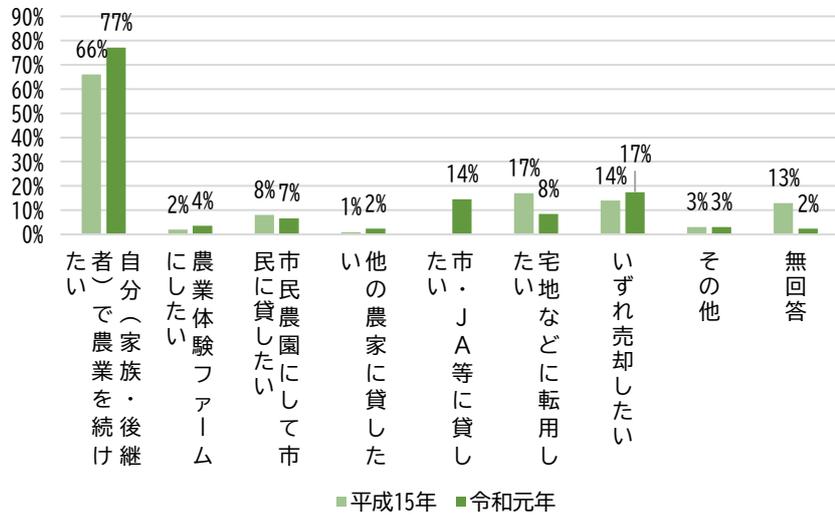
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「宅地化が進み農薬散布が十分できない」が+10%となっています。また「宅地化が進み通風や日照、水はけが悪化している」「野菜の残渣や剪定枝の処理が難しい」と回答した人の割合が引き続き変化しておらず、対策が必要と考えられます。

問 2 5 今後、市内に所有する農地をどのように利用したいと考えていますか？

◆「自分（家族・後継者）で農業を続けたい」と回答した人が77%と最も多くなっています。

令和元年結果	回答数	割合
自分（家族・後継者）で農業を続けたい	128	77%
農業体験ファームにしたい	6	4%
市民農園にして市民に貸したい	11	7%
他の農家に貸したい	4	2%
市・JA等に貸したい	24	14%
宅地などに転用したい	14	8%
いずれ売却したい	29	17%
その他	5	3%
無回答	4	2%



※2 つまで選択可

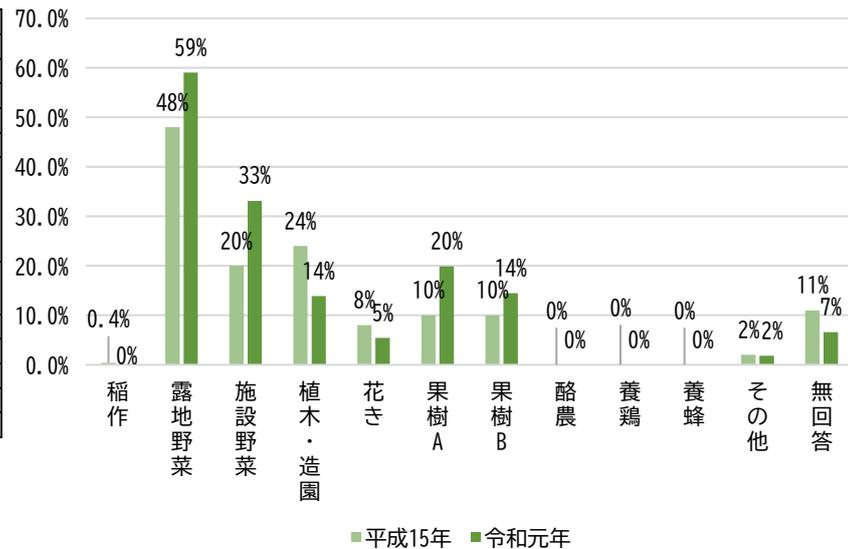
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「自分（家族・後継者）で農業を続けたい」と回答した人が+11%となっています。また「宅地などに転用したい」が▲9%となっています。

問 2 6 今後の経営の中心となる作物として、どのようなものを考えていますか？

◆「露地野菜」と回答した人が59%と最も多くなっています。

令和元年結果	回答数	割合
稲作	0	0%
露地野菜	98	59%
施設野菜	55	33%
植木・造園	23	14%
花き	9	5%
果樹A（ぶどう、ブルーベリー、キウイフルーツ、なしなど）	33	20%
果樹B（くり、かき、うめ）	24	14%
酪農	0	0%
養鶏	0	0%
養蜂	0	0%
その他	3	2%
無回答	11	7%



※いくつでも選択可

【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

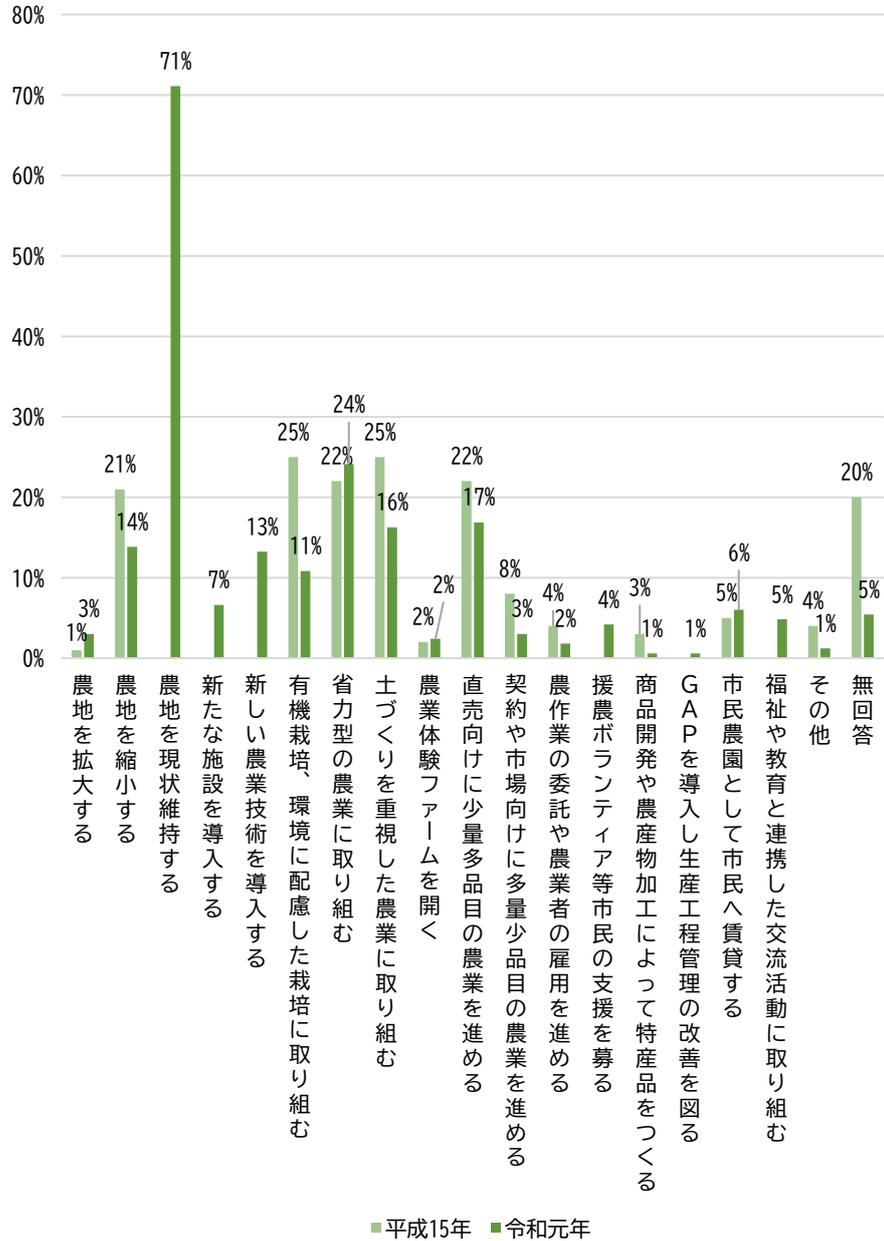
「露地野菜」が+11%、「施設野菜」が+13%、「果樹A」が+10%、「果樹B」が+4%となっており、また「植木・造園」が▲10%となっています。

問27 今後の農業経営の方針について、あてはまるものはどれですか？

◆本年度アンケートで追加された「農地を現状維持する」と回答した人が71%と最も多くなっています。次いで「省力型の農業に取り組む」と回答した人が24%となっています。

令和元年結果	回答数	割合
農地を拡大する	5	3%
農地を縮小する	23	14%
農地を現状維持する	118	71%
新たな施設を導入する	11	7%
新しい農業技術を導入する	22	13%
有機栽培、環境に配慮した栽培に取り組む	18	11%
省力型の農業に取り組む	40	24%
土づくりを重視した農業に取り組む	27	16%
農業体験ファームを開く	4	2%
直売向けに少量多品目の農業を進める	28	17%
契約や市場向けに少量多品目の農業を進める	5	3%
農作業の委託や農業者の雇用を進める	3	2%
援農ボランティア等市民の支援を募る	7	4%
商品開発や農産物加工によって特産品をつくる	1	1%
GAPを導入し生産工程管理の改善を図る	1	1%
市民農園として市民へ賃貸する	10	6%
福祉や教育と連携した交流活動に取り組む	8	5%
その他	2	1%
無回答	9	5%

※いくつでも選択可

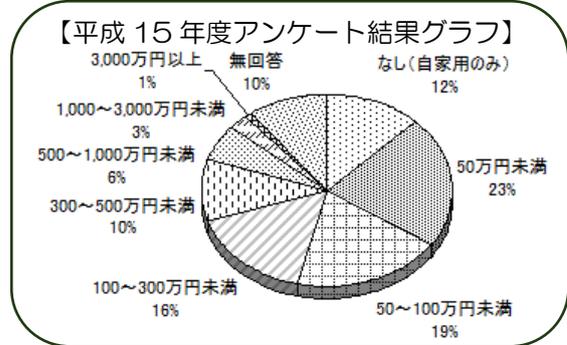
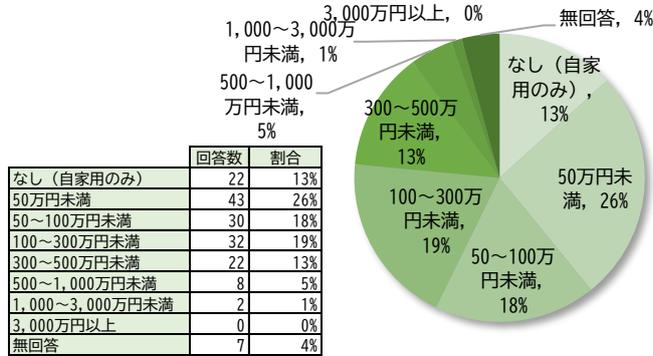


【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「農地を拡大する」が+2%、「省力型の農業に取り組む」が+2%、「市民農園として市民へ賃貸する」が+1%となっており、その他項目は平成15年度の結果より減少しています。また本年度アンケートより追加された項目では、「農地を現状維持する」が71%と高い割合となり、他は「新たな施設を導入する」が7%、「新しい農業技術を導入する」が13%、「援農ボランティア等市民の支援を募る」が4%、「GAPを導入し生産工程管理の改善を図る」が1%、「福祉や教育と連携した交流活動に取り組む」が5%となっています。

問 2 8 あなたの家の年間農業所得はいくらですか？

◆「50万円未満」と回答した人が26%と最も多くなっています。また「50万円未満」の回答で「農業所得がマイナスである」と注意書きされている回答も数件ありました。

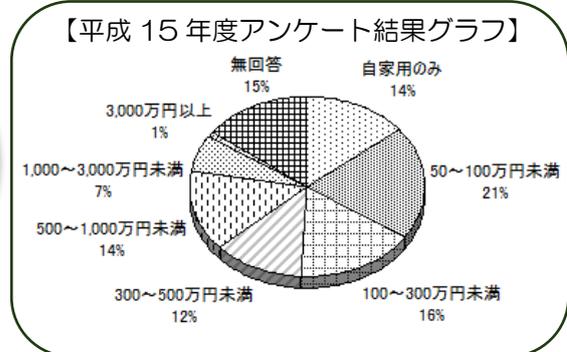
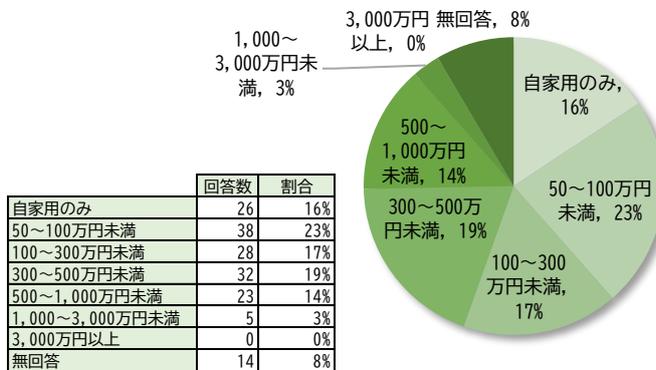


【平成 15 年（2003 年）アンケート結果との比較】

「3,000万円以上」が0%となり、「1,000～3,000万円未満」が▲2%、「500～1,000万円未満」が▲1%と高所得者が減少しています。

問 2 9 今後の農業所得目標額はいくらですか？

◆「50～100万円未満」と回答した人が23%と最も多くなっています。



【平成 15 年（2003 年）アンケート結果との比較】

「300～500万円未満」が+7%となっています。

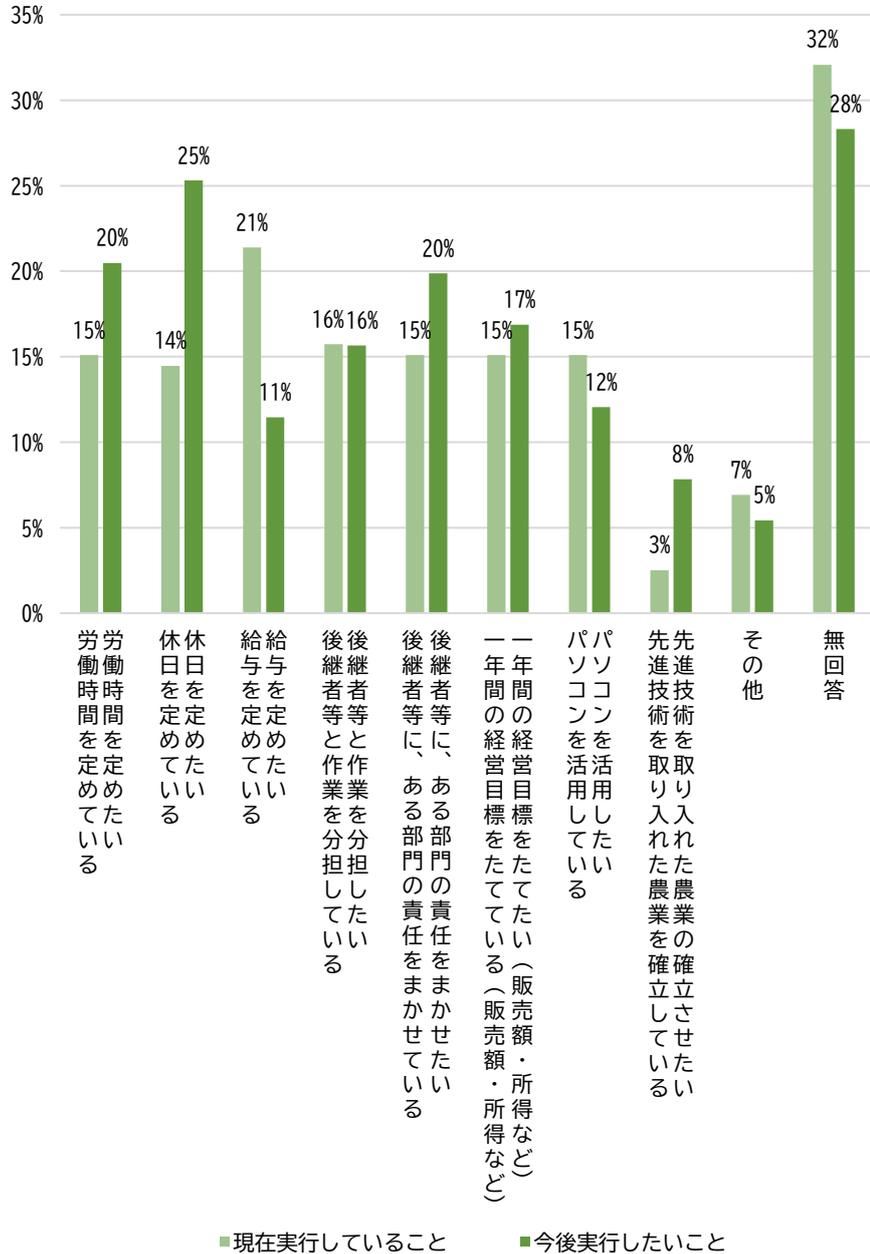
問30 農業経営で現在実行していることは何ですか？また今後実行したいことは何ですか？

◆現在行っていることでは「給与を定めている」と回答した人が21%と最も多くなっています。また今後行いたいことでは「休日を定めたい」と回答した人が25%と最も多くなっています。

現在	回答数	割合
労働時間を定めている	24	15%
休日を定めている	23	14%
給与を定めている	34	21%
後継者等と作業を分担している	25	16%
後継者等に、ある部門の責任を任せている	24	15%
一年間の経営目標をたてている（販売額・所得など）	24	15%
パソコンを活用している	24	15%
先進技術を取り入れた農業の確立	4	3%
その他	11	7%
無回答	51	32%

今後	回答数	割合
労働時間を定めたい	34	20%
休日を定めたい	42	25%
給与を定めたい	19	11%
後継者等と作業を分担したい	26	16%
後継者等に、ある部門の責任を持たせたい	33	20%
一年間の経営目標をたてたい（販売額・所得など）	28	17%
パソコンを活用したい	20	12%
先進技術を取り入れた農業の確立	13	8%
その他	9	5%
無回答	47	28%

※いくつでも選択可

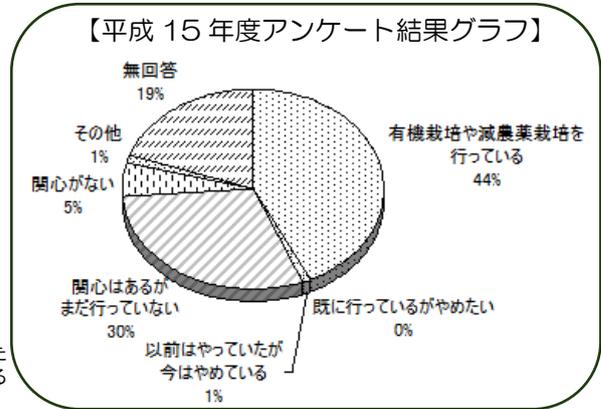
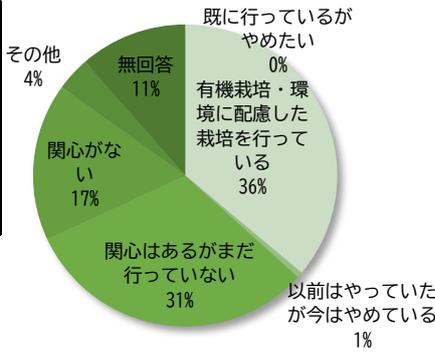


【有機栽培について 問31～問34】

問31 有機栽培や環境に配慮した栽培に関心がありますか？

◆「有機栽培・環境に配慮した栽培を行っている」と回答した人が36%と多く、一方で「関心はあるがまだ行っていない」と回答した人も31%と多い結果となりました。「関心がない」は17%、「無回答」は11%となっています。

	回答数	割合
有機栽培・環境に配慮した栽培を行っている	60	36%
既に行っているがやめたい	0	0%
以前はやっていたが今はやめている	1	1%
関心はあるがまだ行っていない	52	31%
関心がない	28	17%
その他	6	4%
無回答	19	11%



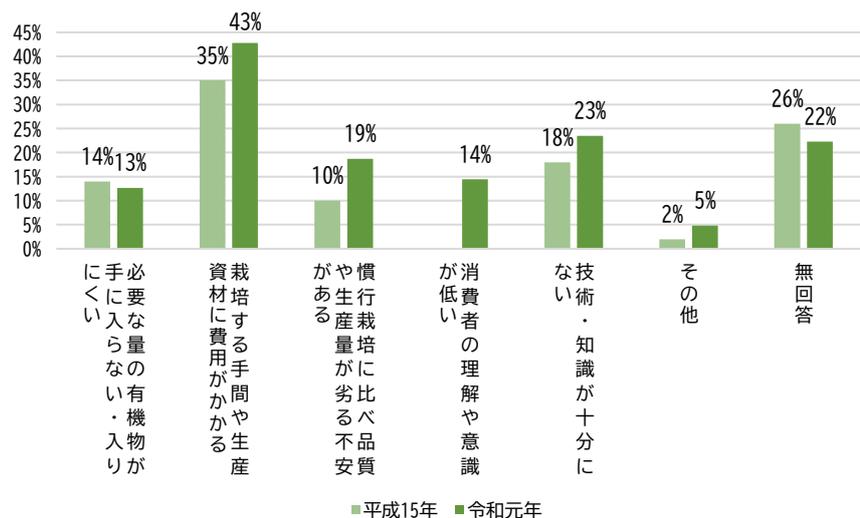
【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

「有機栽培・環境に配慮した栽培を行っている」が▲8%となっており、「関心がない」が+12%となっています。

問32 有機栽培や環境に配慮した栽培の問題点についてどのようにお考えですか？

◆「栽培する手間や生産資材に費用がかかる」と回答した人が43%と最も多く、次いで「技術・知識が十分でない」と回答した人が23%と多くなっています。

令和元年結果	回答数	割合
必要な量の有機物が手に入らない・入りにくい	21	13%
栽培する手間や生産資材に費用がかかる	71	43%
慣行栽培に比べ品質や生産量が劣る不安がある	31	19%
消費者の理解や意識が低い	24	14%
技術・知識が十分でない	39	23%
その他	8	5%
無回答	37	22%



※2つまで選択可

【平成15年（2003年）アンケート結果との比較】

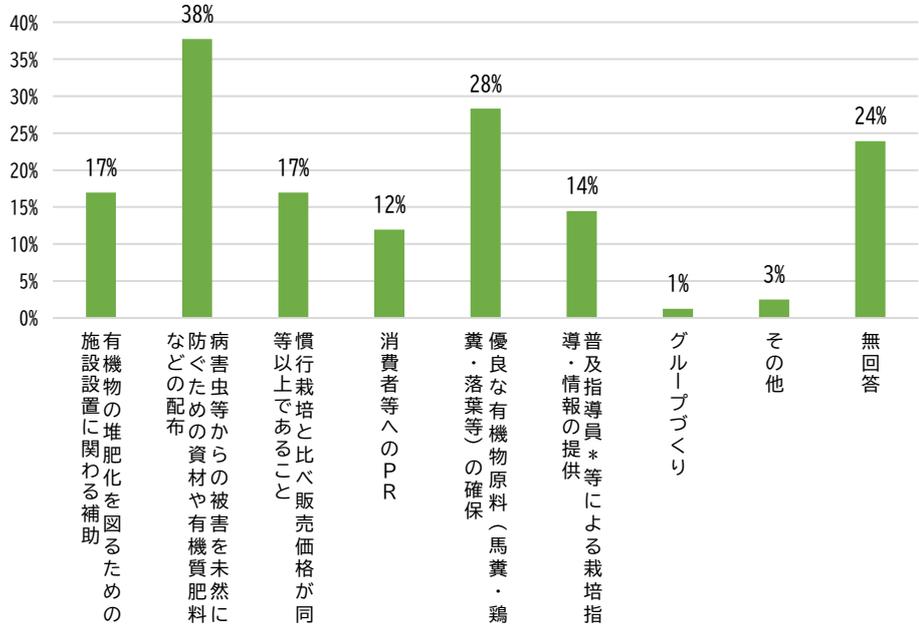
「栽培する手間や生産資材に費用がかかる」が+8%、「慣行栽培に比べ品質や生産量が劣る不安がある」が+9%、「技術・知識が十分でない」が+5%となっています。また本年度で追加された「消費者の理解や意識が低い」が14%となっています。

問33 有機栽培や環境に配慮した栽培を推進する場合、必要とされるものは何ですか？

◆「病害虫等からの被害を未然に防ぐための資材や有機質肥料などの配布」と回答した人が38%と最も多く、次いで「優良な有機物原料の確保」と回答した人が28%となっています。有機質肥料や有機物原料などの資材確保が重要と考えられます。

	回答数	割合
有機物の堆肥化を図るための施設設置に関わる補助	27	17%
病害虫等からの被害を未然に防ぐための資材や有機質肥料などの配布	60	38%
慣行栽培と比べ販売価格が同等以上であること	27	17%
消費者等へのPR	19	12%
優良な有機物原料（馬糞・鶏糞・落葉等）の確保	45	28%
普及指導員*等による栽培指導・情報の提供	23	14%
グループづくり	2	1%
その他	4	3%
無回答	38	24%

※2つまで選択可

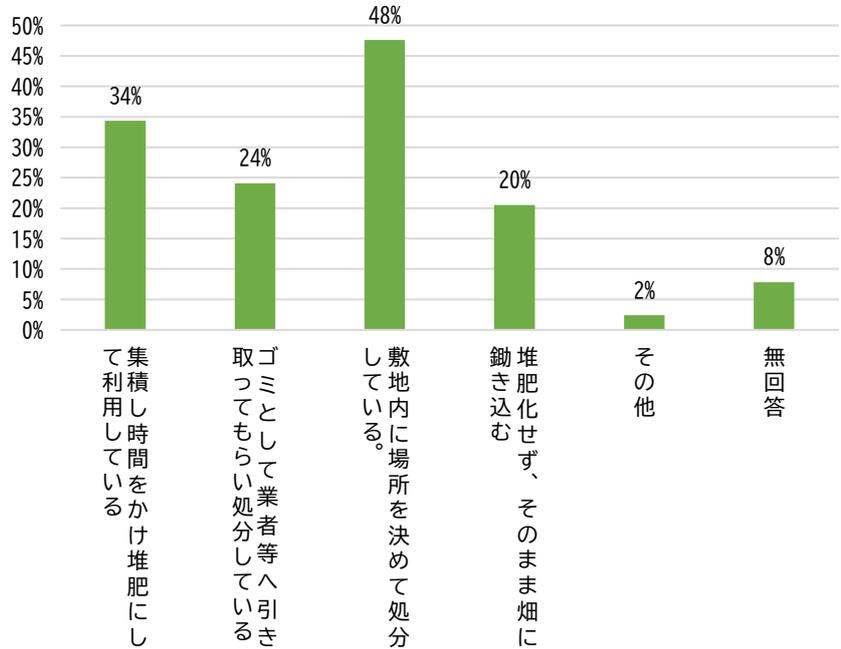


問34-1 野菜の残渣や畜産の糞尿、植木の落ち葉や剪定枝などの有機物資源を、現在はどのようにしていますか？

◆「敷地内に場所を決めて処分している」と回答した人が48%と最も多くなっています。

	回答数	割合
集積し時間をかけ堆肥にして利用している	57	34%
ゴミとして業者等へ引き取ってもらい処分している	40	24%
敷地内に場所を決めて処分している。	79	48%
堆肥化せず、そのまま畑に鋤き込む	34	20%
その他	4	2%
無回答	13	8%

※いくつでも選択可

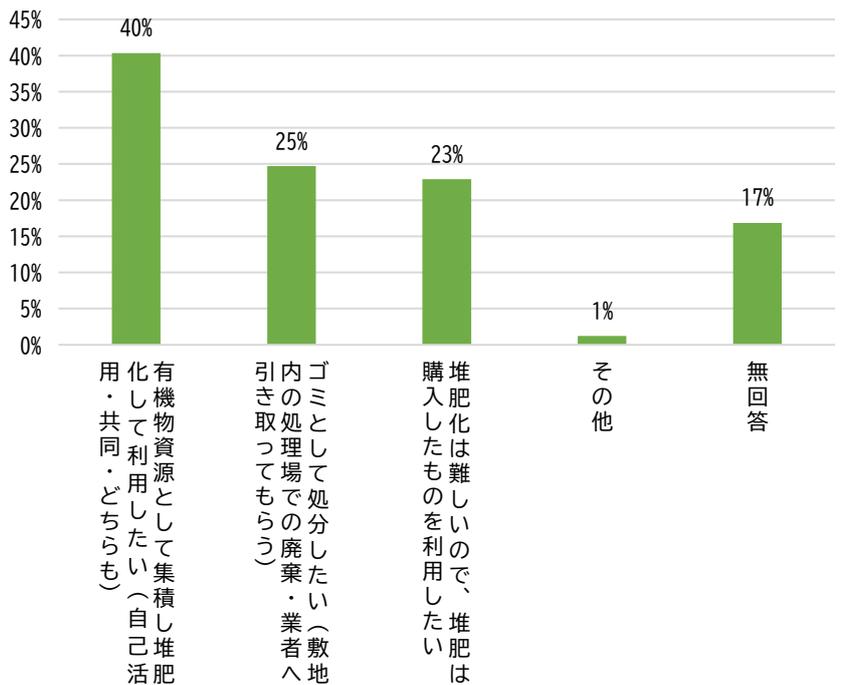


問34-2 野菜の残渣や畜産の糞尿、植木の落ち葉や剪定枝などの有機物資源を、今後どのようにしたいですか？

◆「有機物資源として集積し堆肥化して利用したい」と回答した人が40%と最も多くなっています。

	回答数	割合
有機物資源として集積し堆肥化して利用したい（自己活用・共同・どちらも）	67	40%
ゴミとして処分したい（敷地内の処理場での廃棄・業者へ引き取ってもらう）	41	25%
堆肥化は難しいので、堆肥は購入したものを利用したい	38	23%
その他	2	1%
無回答	28	17%

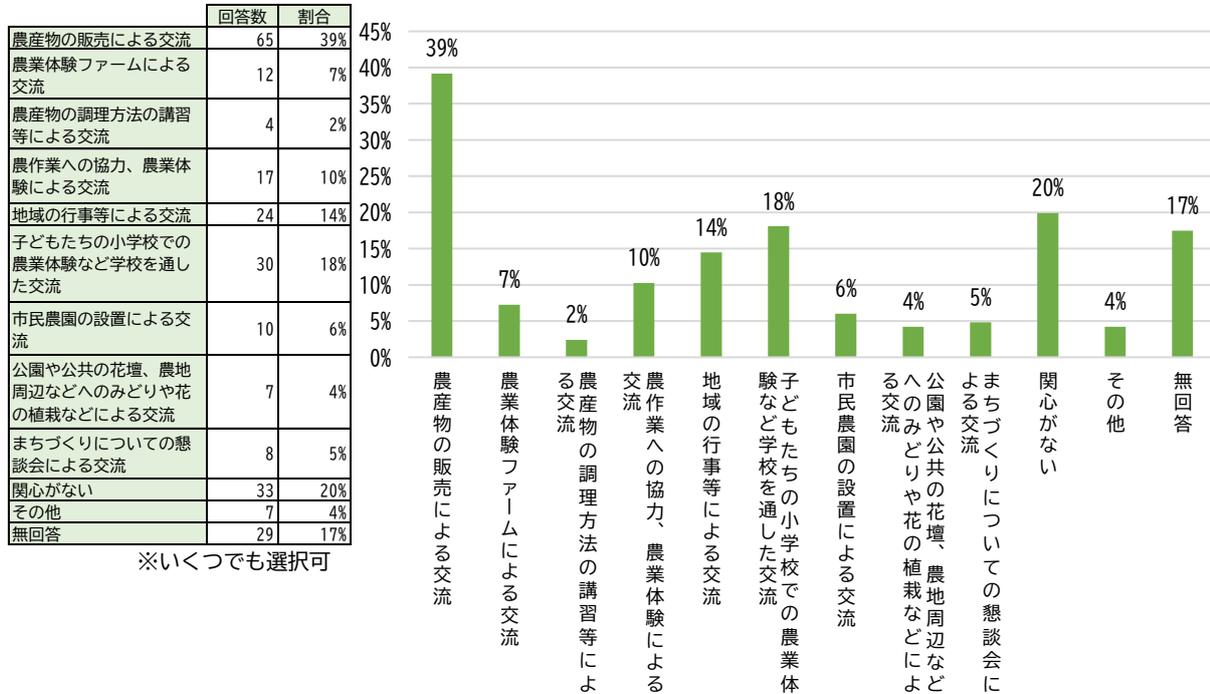
※いくつでも選択可



【交流について 問35～問37】

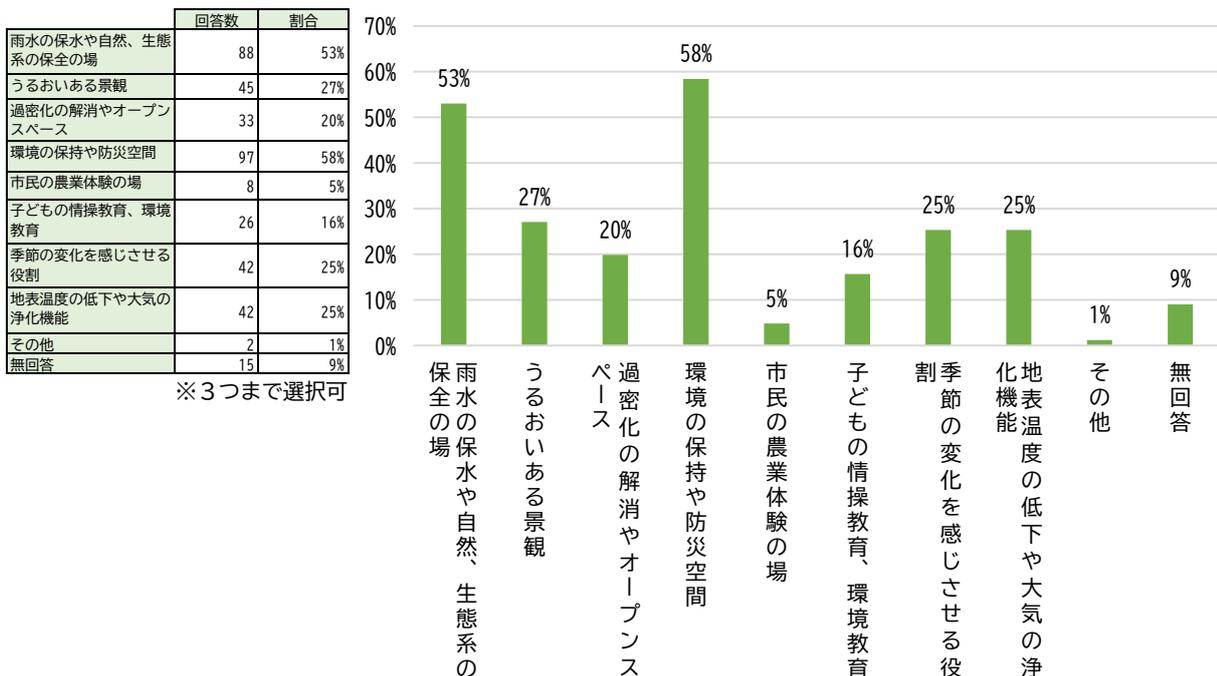
問35 地域住民とのふれあいについて望むことをお選びください。

◆「農産物の販売による交流」と回答した人が39%と最も多くなっていますが、「関心がない」と回答した人も20%と多くなっています。



問36 都市農業や農地は農産物の生産だけでなく、都市生活の中で様々な役割を果たしていますが、どのような役割が大切だと思いますか？

◆「環境の保持や防災空間」と回答した人が58%と最も多く、次いで「雨水の保水や自然、生態系の保全の場」と回答した人が53%となっています。



問37 今後の農業施策で重視して欲しいものは何ですか？

◆「フェンス整備等農地保全への取り組みに対する支援」「野菜の残渣、剪定枝など、資源の堆肥化システムの構築」と回答した人が、それぞれ27%と最も多くなっています。

	回答数	割合
有機栽培・環境に配慮した栽培の推進	40	24%
調布市農産物ブランド化の推進	29	17%
直売所の整備	28	17%
共同直売所の充実	31	19%
農業技術の指導の充実	22	13%
生産者グループの組織化	3	2%
援農ボランティアの充実	15	9%
フェンス整備等農地保全への取り組みに対する支援	45	27%
販売手法の検討・拡大	15	9%
学校給食での利用の拡大	14	8%
野菜の残渣、剪定枝など、資源の堆肥化システムの構築	44	27%
公共施設事業での地場農産物の活用（植木、花き等）の推進	9	5%
市民農園事業の拡大	11	7%
農業体験ファーム事業への補助	5	3%
農業用施設等への補助	37	22%
市民との交流事業の推進	6	4%
農業景観の保全	36	22%
農業関連情報広報の充実	10	6%
農作業を受託する事業の推進	10	6%
農産物生産履歴や土壌検査への対応	8	5%
生産緑地の追加指定	13	8%
土地区画整理事業等による営農環境の向上	8	5%
農業改善計画に沿った支援や補助の充実	11	7%
その他	7	4%
無回答	23	14%

※いくつでも選択可

